

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4370102727
法人名	特定非営利活動法人あやの里
事業所名	グループホームあやの里
訪問調査日	平成 21 年 1 月 27 日
評価確定日	平成 21 年 2 月 16 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成 21年2月17日

【評価実施概要】

事業所番号	4370102727
法人名	特定非営利活動法人あやの里
事業所名	グループホームあやの里
所在地 (電話番号)	熊本県熊本市山ノ内2-1-14 (電話) 096-360-3511
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップいふ
所在地	熊本市水前寺6丁目41番5号 千代田レジデンス106
訪問調査日	平成21年1月27日

【情報提供票より】(平成20年12月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13年 10月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
	利用定員数計 18 人 常勤 12 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 7.76 人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築/改築
建物構造	木造平屋造り	
	1 階建ての	1 階

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	17,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(240,000円)	有りの場合 償却の有無	有2年	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4)利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86 歳	最低 78 歳	最高 100 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	東野病院、赤坂外科胃腸科医院、小柳病院、合沢歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の中にある福祉の集落「あやの里」。「グループホーム第一あやの里」「グループホーム第二あやの里」「小規模多機能住居竹南」の入所施設と、訪問介護・通所介護・居宅介護支援事業が併設され、総合的に在宅生活を支援している。職員の入居者・利用者に対する眼差しや接する姿は、年配者に対する尊敬の念とともに親に対する愛情のごとく感じることができる。ホームの庭は、保育園の散歩コースとなっており、飼っている犬やうさぎ、烏骨鶏に集まる子供たちの輪が、戸外で過ごす入居者の楽しみの一つとなっている。動物を世話をする小学生と入居者との交流から地域に根付いた「あやの里」が伺えた。センター方式を活用し利用者本位の視点を大切にされたケアで、入居者・家族の安心と信頼が得られていた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果を検討し、入居者に財布を預け買い物に行く等普通の暮らしづくりが展開されていた。また、より一層の個別支援を重視し、センター方式を全職員が徹底的に研修で学び記録の充実に取り組む努力がみられた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は各棟屋のリーダーが行い、全職員で読み合わせをし周知している。自己評価・外部評価を1年の仕事の振り返りと捉え取り組む姿勢がみられた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度定期的に開催されている。地域包括支援センター・社会福祉協議会・老人会・家族代表・管理者等のメンバー構成となっており、地域の情報を得、行事に参加し、地域との交流を積極的に図る姿勢がみられた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月開催される家族会では、パワーポイントでホームの様子が伝えられ、入居者の詳細な暮らしづくりの報告が行われており家族への安心に繋げている。自主運営の家族会は、互いに不安や悩み、意見を話し合える場となっており、役員によって意見を汲み上げ、ホームに伝えるシステムが構築されていた。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣住民や社協・老人会等の方々へ声をかけホーム行事に招待したり、保育園児の散歩コースに広い敷地を提供したり、気軽に訪れてもらえる環境作りがなされていた。また、地域行事への積極的参加を行うことで、一方的でない交流や連携が見られた。地域社会の一員として公民館へ備品の寄付を行い貢献する事で、入居者の尊厳を守る有効な取り組みもあった。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人がどのような状況にあっても、その人らしく地域で暮らし続けることができるように、人としての尊厳を大事にしたい」と地域生活での継続支援を謳った理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週実施されるリーダー会や会議等で理念について話し合っている。また、毎朝のミーティングや毎月の職員全体会議で、理念が日々のサービス提供場面を通じて介護の末端に浸透しているか等、事例を通じて話し合う仕組みがあり、人の心を大切にしたい感謝の言葉も聞かれ、実践に繋がっている様子が伺えた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	クリスマス時にはイルミネーションを灯し、入居者を楽しませる工夫があり、地域の人のシンボリック的存在として待ち合わせ場所にもなっている。また、広いホーム敷地は、保育園児の散歩コースとなっており、入居者の楽しみと共に、地域の人が集まりやすい工夫がみられた。入居者と職員は、地域の掃除活動にも参加する等、地域の一員としての活動にも努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各棟家のリーダーが行い、全職員へは読み合わせを行うことで共有している。自己評価を行うことで、1年間の振り返りができ、今後のサービスの質の向上に繋げてゆきたい機会となっていることが伺えた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域包括支援センター・社会福祉協議会・老人会・家族代表・管理者等で構成し、2ヶ月に1度定期的開催。ホームの現状報告にとどまることなく、リスクマネジメント等の参考資料を準備する等して、活発な意見交換の場となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	熊本市介護相談員の訪問を毎月受け入れ、利用者の声を聴く事業も積極的に活用している。また、管理者は老人会に出向き認知症の講演を行う等、認知症の啓発活動に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「家族との連携シート」を活用し、「職員の誰が」もしくは「家族の誰が」「何を言って」「どのように対応したのか」が個別一覧となっており、誰が見てもわかるように把握され、的確な情報提供が積極的に行われていた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し苦情や意見の収集にあたり、自主運営の家族会からホームへ直接意見が寄せられる事が多く、運営に関する家族等の意見が反映される仕組みが構築されていた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各棟家のリーダーは職責の重要性から異動は行われない方針となっている。朝のミーティングでレクリエーション・諸行事等の情報共有と連携が図られており、全職員が全ての入居者を把握するシステムがあり異動による影響はみられない。また、家族とは毎月の家族会で顔合わせが行われており、詳細な報告もあり家族の信頼に繋がっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には、ホームの概要と理念等の研修を行い、認知症とはの研修の後、個別マニュアルに沿った業務ができるように指導が行われている。外部研修は回覧板を活用し情報が提供され、仕事として研修に参加できるよう配慮があり、資格取得に向けて、ホーム内で実技指導や勉強会が開催されていた。資格取得者には報奨金もあり職員間で切磋琢磨し働きながら学ぶ機会作りの工夫がなされていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ積極的に参加し、情報交換や親睦に努めている。また他グループホームから見学や家族会への参加もあり、他グループホームの勉強の場ともなっており、社会資源の一つとしてグループホーム全体の質の向上に努めていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人内のデイサービスやショートステイを利用し入居される場合が多く、馴染みやすい環境となっている。家族から利用開始以前の詳細な情報を聞き取るとともに、利用者と職員が1対1でドライブやお茶を通じて本人の想いや意向を確認する工夫もなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	漬け物や干し柿作りなど、昔ながらの料理はもちろんのこと、言葉遣いやお茶の飲み方など作法や伝統行事等、入居者から学ぶ場面が多く設けられている。入居者一人ひとりにエプロンが用意され、入居者と職員が支え合い昼食の準備を行う様子が見られた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者との日々の会話を大切に情報収集の場と意識し、センター方式に反映させる努力がみられた。家族の積極的な協力もあり、センター方式の「基本情報」「私の家族シート」「私の生活シート」にはたくさんの情報が記入され、支援の統一にも活用されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族から入居者の生活歴や意向を聴取した内容は、センター方式に集約され介護計画に反映されるシステムとなっていた。出過ぎず干渉しすぎないケアを行い残存能力を引き出し自己実現に繋げるステップを大切にしたり関わりをチームでカンファレンスを行い、自立支援を目標とした計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月末には、介護計画をもとに翌月の目標を掲げ、リーダーや担当者の振り返りもかねた介護計画のケース検討会が行われ現状に即した支援に繋がっている。毎月の家族会には、職員それぞれが担当利用者の課題を抱え会に臨み、家族との話し合いを行い介護計画の見直しに反映する仕組みがあった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同敷地内には4つの棟屋が併設されており、行事やイベントは合同で行われている。健康体操やピアノ教室等の生活文化活動はそれぞれの棟で実施され、互いに行き来し、入居者が自由に参加したい活動に参加でき日々の楽しみごとの選択肢が広がっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、協力医療機関の対応はホームで行い従来のかかりつけ医の受診は家族に依頼する説明があり、家族の理解が得られている。現在は、協力医を主治医とする入居者が多く、往診による診察で病院に付き添う家族の負担軽減となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の定義を「重度化指針」で定め、その対応について説明し「終末期生活支援に関する同意、確認書」には各家族からの記名捺印がみられ、具体的な支援体制を示すことで家族からの信頼が得られていた。また、終末期の病気の特性に合わせた研修が行われており、その対応も万全に整えられていた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録は、リビングで入居者の見守りを行いながら家計簿をつけるようにさりげなく目立たぬような配慮があった。声かけや対応は個々のペースに合わせてゆっくりと行われており、職員の丁寧な話しぶりからも年長者として尊敬を持って接している事が窺えた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事後はあわただしく片づけることなく、入居者は思い思いに食後の時間を楽しみ会話を交わしている様子等は、和やかでゆっくりとした時が流れ、一人ひとりのペースを大切に過ごした方を支援する姿勢が伺えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は入居者みなで行えるようエプロンやかつぼう着を準備し、配膳や配茶を行っており、入居者の残存能力に合わせた活躍の場面作りが行われていた。ゆったりとしたペースで職員との協働作業となっており、食後に和気藹々と談話を楽しむ姿が見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜日から土曜日まで午前・午後、いつでも自由に入浴可能な対応となっている。ホーム敷地内の茶畑で採れたお茶湯・ゆず湯・菖蒲湯・バラ湯などさまざまな入浴を楽しめる工夫がなされていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式を活用し、生活歴を把握し法人内で多様な趣味活動の場を用意することで楽しみや生きがいを感じてもらおう支援が行われていた。また、入居者の趣味や好みを把握し、さりげなく物品を準備し自発的に楽しめるような場面作りが行われていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広い敷地内を自由に散歩できる恵まれた環境にあり、地域とのイベントの交流や、入居者の希望に添った散歩・買い物・近隣のパン屋へのドライブ等、数多く外出の機会を作る工夫がみられた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠せず、自由な行動を提供し、見守りが必要な入居者に対しては付き添い支援を行い安全面に配慮が心がけられている。敷地内の出入りに面する住民に協力を求め、見守りや声かけ、連絡を行ってもらおう協力体制が整えられていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1日は全体朝礼で消火器、防水用水の確認を実施。近隣には避難訓練への参加を依頼し、連絡網に組み入れた協力体制がある。調査時、緊急搬送に遭遇したが職員は皆落ち着き、入院時の「持ち物リスト」を確認する場面も見られ、日頃の緊急対応研修が実践に繋がっていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は個別に把握され、栄養の偏りや水分不足が起こらないようにテーブルにはお茶セットが用意され、自由に水分摂取ができるように配慮されていた。食事は、見た目も美しく種類も豊富で、栄養バランスに配慮されていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの空間は、テラスに面しており日当たり良く、入居者の寛ぎの場として居心地の良さを大切に考えられていた。「第一あやの里」には、リビングとは別の小リビングスペースがあり、入居者や来客者も気軽に軽食が作れるようなミニキッチンが設置されており、軽食や家族の訪問時に自由に利用でき落ち着ける空間作りとなっていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の衣替えや寝具の入れ替え等は家族と共に行うように働きかけ、快適な部屋作りが目指されている。家具や仏壇、使い慣れた生活用品の持ち込みがあり、各部屋は個性的で居心地のよい空間となっていた。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	特定非営利活動法人あやの里
(ユニット名)	グループホームあやの里第I
所在地 (県・市町村名)	熊本県熊本市山ノ内2-1-14
記入者名 (管理者)	岡元 俊子
記入日	平成 21年 1月 27日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で家庭的な雰囲気を大切にし、居心地の良い心穏やかな生活が送れる様な理念を作り上げている	○	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年度初めや、年度中間での職員全体会を通して管理者より理念の話がある、毎日の朝礼で、その時々気づいた事例に対して具体的な取り組みや、考え方、対応を学んだりしている、各棟には理念を掲示し職員全員が常に理念を共有できるようにしている。	○	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月行っている家族会では、日々の生活状況をプロジェクターを通し内容説明を行ったり、二ヶ月に1回の運営推進会議や地域の方々のボランティア清掃や行事、実習生の受け入れ等を通し入居者の皆さんとの交流もあり地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃より近くの公園へ散歩に出かけている、散歩途中ご近所の方と挨拶を交わしたり、会話したりと声をかけ合っている。ホームの行事(清掃、もちつき等)等には来てもらったり、地域の行事にはこちらからも参加し交流を図っている。	○	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域主催の夏祭りや、お月見会、ドンドヤ等、入居者の皆さんと一緒に参加したり、町内会での公園、町内の清掃、草取りには職員も参加し地域の方達と交流している	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	民生委員の方達と連携を図り、いつでも相談を受け入れるようにしている	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	新たに気づき、努力することや、取り組むことが明確になり振り返りやすい機会だと思う	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に会議を実施し、入居状況、家族会の出席状況等を報告し、また参加して頂いた皆様からの意見等をいただき、質の向上に取り組んでいる	○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	老人会や社協の方達との交流もあり、意見等いただき質の向上に取り組んでいる	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会へ参加し学ぶ機会を持ち、研修後は研修報告書を提出、会議で報告し、必要な人への支援が出来るようにしている	○	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会へ参加し、研修報告を受け学ぶ機会を持つ、また事例を通して虐待防止に関心を持って介護に取り組むよう職員で話し合いにより相互理解を図る。その他トイレ介助や入浴の際、入居者に身体異常がないかどうか観察する。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様の時間に合わせ、管理者より時間をかけ特にご注意していただきたい内容については、ご家族様が納得理解されるまで十分に説明を行っている。納得、理解がいただけたらサイン捺印をもらっている	○	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置している、家族会において、苦情や質問等お訪ねしたり、面会時にお話を伺ったりしている、意見や苦情が出た場合は、書面に記入し担当者会議にて報告し内容に対して改善を行い理解を得ている	○	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の家族会にて1ヶ月の入居者の皆さんの生活状況や入退院の報告や健康状態を報告している、金銭管理については出納帳の確認、支払分の領収書を手渡し確認して頂きサインもしくは捺印を頂いている	○	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情が出た場合は書面にて担当者会議にて報告、改善していき対応を図っている	○	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表をはじめ、各部所の主任、主任補佐を中心に週1回担当者会議を開き代表の意見を聞いたり、職員より意見を伝えたりしている	○	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	代表や勤務作成担当者への連絡が取れ調整を行っている、連絡が取れない場合、各ユニットの主任が調整し必要な所へ配置できるようにしている	○	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	毎朝のレクレーションや週行事や月行事等、合同で行いユニット間の行ききがあり、職員とも顔なじみの関係が出来ており、職員もどちらも対応できるようになっているが、異動は最小限にとどめている	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎朝の朝礼に参加し、専門的な知識や技術を伝え職員が学ぶ機会となっている、外部研修後は復講を行い研修を実施している、毎月行っている健康教室では入居者の方々も一緒に学べるよう簡単で分かりやすいような内容を伝え、共に学べるようにしている	○	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で関心を持つ意見や取り組みを学んだ時等、代表へ伝え現地に出かけ実習して学んだり参考になる意見を聞き学んでいる、また当ホームにも勉強や実習に来られる方を受け入れている	○	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	互助会主催の職員旅行や忘年会を実施し、皆で持ち寄った景品でお楽しみ抽選会等を実施している、また当月誕生月の職員にお花のプレゼント等をして心身のリフレッシュが出来るように努めている	○	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自己評価にて各自が取り組みたいことを明記しその評価を受け、各自向上心を持ち働いている、資格取得に対しては勤務調整があり励みになる	○	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来られた際はゆっくりとお話を伺い現在利用されている現場を見学してもらったり、一緒にお茶を頂いたりして過ごして感想や困っていること、不安なこと、求めていること等を把握できるように担当者や、管理者、ケアマネージャが受けとめるよう努力している	○	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	困っていること、不安なこと、求められていることを十分にうかがい、施設環境や現場を見学していただき、職員の対応や入居者の皆さんの生活状況等をじっくり見ていただき、不安の解消の参考にしていただいている、ホームの状況をじっくり説明している	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容と緊急性を見極め様々なサービスの種類の説明、他事業所等の紹介を行い手助けを行っている	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お住まいを見学してもらい、入居者の方と一緒にお茶を飲んでもらったり、ご本人が得意とされることへの場面提供をしたり他の入居者の方と一緒にされたり、職員を交え場面の共有を行い少しずつ馴染めるように工夫している	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人様が好まれること、好まれないこと、楽しみなこと、得意なことなど、日常生活の中で取り組めるように支援している	○	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時に活躍されている場面をお伝えし、喜びを共有したり、また職員より提案を行い協力をお願いし、共にご本人を支えていくという認識をもつていただくようにしている	○	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時はゆっくりお話しができるよう場面を提供したり、月一回の家族会の昼食交流会で幸福な時間を過ごしていただけるような場面を提供し支援している	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式を活用し、ご家族のお名前や友人、知人等情報を得て日頃の生活の会話の中でも話題にし関係継続に努めている	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合いそうな入居者の中に職員も一緒に入り、仲間づくりや馴染み関係づくりを試み溶け込まれるように支援する	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院による契約終了時は再入居を優先することを伝えたり、面会時、ノートに面会時の様子を記入したり、情報交換を行っている	○	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式により情報を収集したり、入居前にご本人、ご家族様より情報を収集し、本人ご家族の意向にそようプランに反映している	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族より情報収集やセンター方式による情報収集、病院、施設等からの情報をもとにこれまでの暮らしの把握に努める	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居されて気づいた事など、問題とする内容があった時などケース検討会を開き職員全員が共通の認識を持ち対応するように努めている	○	
築いた				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時、ご本人、ご家族の思いをおたずねしケース検討会や朝礼での事例検討会を行い、意見をもらいプラン作りに反映している	○	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース検討会を行い、ご家族や関係スタッフと話し合い適切な支援が行えるよう見直しを行いプラン作成している	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は支援経過表に記録している、新たな気づきなどはケース検討会にて話し合いを行い、実践評価している、介護計画への追加や見直しに活かされている	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム2ユニット、有料老人ホーム2単位、デイサービス2単位があり、自由に行き来をしながら交流を図ったり、一緒に行事に参加したりできるため、入居者の気分転換にもなる。また必要に応じてご家族とも相談しながら他のユニットへの転居等も支援している	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くの派出所へは、あやの里の事業内容を伝えてあり、認知症の方の住まいを見ていただいたり、何か起きた時にはすぐ対応が出来るように手配がある	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要があれば他のケアマネージャやサービス事業者と連携をとったりし、より良いサービスが出来るように努めている	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センター長に参加して頂き、家族代表や法人代表からの報告を受け意見や協力を得られている	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療機関への要望をたずねて、緊急時等もご家族へ確認を取りながら希望される医療が受けられるように支援している、また要望に応じて専門医への受診も支援している	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に専門医の受診をされ、その都度、情報提供書をご家族を通して専門医に提出して頂いている	○	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	各ユニットに看護師が1名ずつ配置されており、その看護師が中心となって入居者の健康状態に努めている、医療連携体制をとっており昼夜問わず急変時即応できるよう支援している	○	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院用品と連絡用ノートを用意し、あやの里での思い出の写真やお見舞い品を届け、顔なじみのスタッフが出来るだけ多く顔を見せ不安や不穏を最小限にとどめられるよう支援している。連絡ノートを活用しご家族やお見舞の人たちとの情報交換を行っている。医療機関、主治医、ご家族との連携を図り、早期退院後は再入居できるよう支援している	○	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化指針や看取りについては入居時に確認している。主治医、ご家族、関係スタッフを交え方針の共有を図っている	○	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族、主治医、事業所の代表、関係スタッフ間にて変化に応じて十分に話し重ね、日頃から意向を聞いて書面に綴っている	○	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えの際は、ご家族へ意向を十分に説明し、入居者の方は日中、体験的に移動予定先の棟で過ごしていただき、数日様子の観察を行った上でその結果をご家族へ報告し納得を得ている、また数日その棟で過ごされることでなじみの関係ができ最少限のダメージにくいとどめるよう努めている	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	あやの里の理念にもあるように個人として尊重し尊厳のある生活を支援している。トイレでの失敗や、トイレへの誘導の際の声かけも周囲に気づかれないよう、その方へそっと声かけし、さりげなく誘導している	○	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	同じ高さの目線で、ゆっくり、わかりやすく話をし、また相手の話を腰を下ろしてじっくり聞く姿勢を取る、急がせず、ゆったりした態度で本人が自己決定しやすい雰囲気を作る支援を行ったりしている。共に生活を送り信頼関係作りも行っている	○	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の得意とすることや、好きなことを把握し、場面作りをしてお誘いし、希望に添えるよう支援している	○	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行事や外出等が予定されている時は、前日より一緒に服を選んだり、当日はお化粧をして出掛けられたりする。またカットは定期的に訪問美容の方が来られてカットしてもらっているが、なかには定期的に家族がパーマをかけたり、カット、髪染め等連れていかれることもある	○	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜や果物の皮むきしながら献立の話をする。食卓で自分達で皮をむいた野菜が提供されるため、話も盛り上がる。おしゃべりをしながら職員と一緒に片付けもやっている	○	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やおやつで、甘い物を好まれる方が多い。外出時好きなお菓子を買物されたりしている、お酒を飲まれる方、たばこを吸われる方はいらっしやらない	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツ減少に取り組んでいる。入居者各人の排泄パターンを把握しその方に合った排泄誘導を行っている。布パンツに尿とりパットを使用し、リハパンツ使用がほとんどなくなった	○	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月、水、金、週3回に入浴日としているが、希望があればいつでも入浴は可能である。入浴剤を使用し温泉気分を味わってもらったり、ゆったりと入浴できるように心がけている	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	毎朝軽いレクリエーションを行い、自室の掃除をしてゆっくりとお茶の時間を作っている。お天気の良い日は近くの公園へ散歩に出たり、テラスでの日光浴をしたり、家事活動をして規則正しい時間を過ごされており、安眠への支援を心がけている	○	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意とされていることを把握し活躍できる場面作りを支援している。また毎週木曜日の午後は自習活動の日として、カラオケ、生け花、裁縫等好きな所に参加できるよう支援している	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	中には、現金を持っていることで安心される方があり、ご家族と相談し大事に持っておられる。買物で自らのお金で代金を支払われている	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日は飲物やおやつを持って近くの公園へ出かけたり、テラスでお茶をいただいたりしている。一人で外に出られようとされたら、そっと見守りながら一緒にご本人の思いのまま散歩を行っている	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブや外食、観劇等入居者の要望を伺いながら、おでかけの行事として実施している	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族よりお手紙や贈り物が届いたら、静かな環境でゆっくりとお礼の返事が書けるよう支援したり、贈り物を持った写真を添えてお返事を書いて頂いたり、ゆっくりした時間に電話をかけ直接お話しをしてもらえるよう支援している	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご面会の皆さんとご本人が他の入居者へ気づかうことなくゆっくりと安心して過ごしていただけるよう場面の支援を工夫している	○	
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の人権を守り拘束しないケアに取り組んでいるが、生命を危険に脅かされる場合、一時的な拘束行っており、ご家族へ拘束が必要とされる理由、時間等を説明し書面にて了解を得ている	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関やゲートのカギを開けユニット間や庭への出入りを全て自由となっている。ゲートは17:30～翌朝8:30まで施錠している	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員がフロアを出る際は別の職員へ、入居者の所在や様子を入居者に聞こえないように伝え席を立つ、頼まれたスタッフは責任もって入居者と接しながら所在確認を行い安全に配慮している	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の薬は、カギのかかる戸棚にしまったり、洗剤や歯磨き粉等は昼間は所定の場所に置いて、夜間は戸棚にしまう、石鹸は網に入れ持ち出せないよう危険防止に取り組んでいる	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	家族会にて代表より事例をあげて話しをしたり、事故が起きたら事故報告書を提出し、朝礼や担当者会議で代表交えて、注意、助言、対応をその都度学び、事故防止に取り組んでいる	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを整備し各棟に備えている、また看護師を中心に、救急時の対応、日頃より注意しておくこと等の話をしている。看護師の実演もあり、介護職もしっかり学んでいる。また主治医との連携もきちんと出来ている	○	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎日の遅出勤務者は各棟の外見回りをを行い、危険物が無いか、避難通路に障害物が無いかチェックしている。近所の住民の方々の協力も得られるように手配してある	○	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会にて起こりえるリスクについての話を行ったり、事例を通して話を行っている。質問や意見交換をして理解していただいている	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々、健康チェックを行い、いつもと少し違う等の異変があれば看護師へ報告し、主治医の指示を受けたり、緊急性のある場合は、マニュアルに添って速やかに対応する様にしている	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に添って期間、回数、内容、注意事項を確認し個人ファイルに閉じ、日々確認できるようになっている。朝礼にて薬の内容変更や内服与薬済みの確認も行っている。休みの職員は職員確認簿にて確認する	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝礼にて排便状況についての申し送りがあり、便秘があれば報告があり、水分摂取や適度な運動、腹部マッサージ等行い排便を促す工夫を行っている。また個人でジョアやヤクルトを飲まれている方もいる	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は一人ひとりに声かけを行い、洗面所まで誘導し歯磨き、うがいをしてもらい、義歯の洗浄介助をしたりして、その方に合った対応で支援している。また隔月に1日ボランティアで歯科衛生士の方に歯の状態を見て指導いただいている	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量をチェックし、食欲不振の際は好みの物を準備したり、補食したりしている。また主治医へ相談し、カロリー飲用を処方して頂いている	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	毎年、ご家族様へ相談しインフルエンザの予防接種を実施している。時期になれば、各ユニット玄関にマスクを準備し消毒薬での手洗いを実行し、予防対策を取っている。入居者は手洗い、うがいは日課になっている	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤者にて早朝、包丁、まな板を熱湯消毒をしている。食材は、国産の品で安全の高い食材の使用を行っている	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	道路に添って3ヶ所の門があり日中は広く開いており、子供達や、保育園児の移動のコースとなっている。また庭園作りで更なる憩いの場を造っている最中である	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は間接照明を使用し、暖かみのある明るさを提供、台所はリビングの近くで料理をする音やにおいがして、家庭的で生活感や季節感を取り入れて居心地の良い空間づくりをしている	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに気の合った人と座って談笑したり、別のソファーではTV見たり、新聞を読まれたりするなど、好きな場所で自由に過ごされている	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具や調度品を置き、ご家族の写真や仏壇を置いてもらい花を生けたりして、馴染みの雰囲気を出し精神的に落ち着く部屋作りをしている	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計や湿度計を各場所に置き、温度調整を細まめに行っている。また冬場でも一日数回窓を開け換気を行っている	○	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手触りの良い木製の手すりをつけ、トイレや浴室にも立ちあがり、つかまりが安全に楽にできるよう手すりをつけている。玄関や外部に出る際も段差のない造りになっている	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室の入口には、木製の表札を取り付けたり、トイレの場所にはランタンをつけ目印となっている	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでお茶を頂いたり、畑の野菜の生育を眺めたり、収穫したりできるような場面作りで喜んでもらっている。季節に応じて、白菜、大根のつけもの、干し柿づくりとその時々でベランダ活用している。また散歩は近くの公園や周辺散策で良い運動となり有意義に活用している	○	

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	特定非営利活動法人あやの里
(ユニット名)	グループホームあやの里第Ⅱ
所在地 (県・市町村名)	熊本県熊本市山ノ内2-1-6
記入者名 (管理者)	岡元 俊子
記入日	平成 21年 1月 27日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症であっても、またどのような状況であっても利用者の安全と尊厳を守り、地域住民の一員として、その人らしい生活を維持できるように支援していくことを理念としている。	○	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年度初めに、管理者より理念についての話があり、全職員に文章を配布し内容を共有している。日々の支援の中でも理念にそった支援ができていくか、毎朝のミーティングや毎月行われる職員全体会等で事例をとおして具体的な対応を学び確認しあっている。	○	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月行われる家族会や2ヶ月に1度の運営推進会議の中で利用者の日々の暮らしや地域との関わり等を広報誌やプロジェクトをとおして管理者や職員が報告している。他にも、民生委員の方やボランティア、地域の方に支援をうけながら理解していただく努力をしている。	○	
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃より、近辺の散歩時に近隣の方と声をかけあったり、立ち寄っていただいている。小学生や保育園児も動物や利用者や触れあえるよう常に開放し交流している。	○	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に開かれた事業所であるように、地域の行事(清掃、夏祭り、お月見、どんどや等)に利用者とともに職員も参加している。事業所内の行事(餅つき、敬老週間、清掃)やレクレーションに民生委員の方やボランティアの方々に支援を受けている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	校区の社協長さんをとおして、町内の集会に参加したり、民生委員の方々と連携をとり、困りごとや相談に応じている。	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を書面をとおして見直し、管理者を主とし、職員全体で改善事項をあげ取り組んでいる。	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価の結果を2ヶ月に1度の運営推進会議で報告し意見をいただき、日々のサービスの取り組みに活かせるよう努力している。	○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	実地指導を受けたり、日頃、サービスに関して不明な点等を市町村窓口や電話で気軽に相談、対応していただいている。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、研修内容を職員全体会で復講し、誰でも学べる機会を設けている。支援が必要なときは、関係者と話し合い活用している。	○	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、研修での学びを活かし、利用者の尊厳を守るように、日頃より、声のかけ方、接し方に注意し職員同士でチェック、確認しあい、防止に努めている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の内容を一つずつ読み合わせ、重要事項については理解、納得、同意されるまで十分説明し、サイン、捺印をいただいている。</p>	○	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃より、利用者の表情に注意し、ゆっくり話を聞き、不満等があればその都度、職員で検討し対応している。また、市よりの支援相談員の方に来ていただき、利用者の方の声を聞いて結果報告を受け、改善にむけ取り組んでいる。</p>	○	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の家族会で代表より、1ヶ月の利用者の方の暮らし、出来事、入退院の有無、職員の移動等、報告している。金銭出納帳の説明は担当者が行いご家族に確認、サインをいただいている。</p>	○	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や家族会等で不満や苦情が寄せられた時には、文章にし、速やかに対応、改善に努めている。必要時は職員に事例をとおして学びの機会にしている。</p>	○	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎週金曜日の朝に、代表をはじめ各棟の主任、主任補佐が自主的に会議を行い、意見交換や情報の共有、運営に反映できるよう努めている。また、他職員にも伝達し意見を聞いている。</p>	○	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要時は、代表をはじめ勤務作成担当者(不在時は各主任)が速やかに対応し職員の人員確保ができています。</p>	○	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>毎朝のレクリエーションや行事等で両ホームを行き来する機会が多く、利用者や職員もなじみの関係ができており大幅な異動もないためダメージは少ないと思われる。</p>	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は職員の内外研修への参加や資格習得に関し積極的であり、学びは職員全体へ複講したり、毎朝の朝礼できづきを基に意見交換ができています。専門性も高く資格者も多い。	○
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会へ毎回参加し各事業所の方々と交流する機会がある。他にも他事業所と空室の状況や相談しあう等の連携を図っている。	○
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員旅行はほぼ全員が参加し、夏には暑気払い、冬には忘年会等が行われ親睦が行われている。代表や主任が職員の意見を聞いたり、また体調に留意してもらっている。	○
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	準職員、正職員登用制を設けている。職員の資格習得時には職員全体会で代表よりみなに伝えられ褒賞が手渡されモチベーションアップにつながっている。	○
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まずは施設内をご案内し不安の軽減に努め静かに落ち着ける空間の中でお茶を飲みながらリラックスしていただく。利用者の方の表情を観察しながらゆっくりとご本人の困り事やおもいを受けとめられるようにしている。	○
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族にも施設内をご案内し実際に入居者の暮らしぶりや職員の対応、環境を見ていただく。その後、利用者の生活や介護上の困りごと、不安、辛さ等十分に話を聞くようにしている。	○

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われるサービスの内容、費用を紹介しほかの事業所等の情報やインフォーマルでの支援等のアドバイスを行いご本人やご家族が選択できるよう支援している。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居のご希望があれば見学、体験入居、ショートステイ等で対応し職員はご本人の生活歴や情報を共有しほかの利用者との交流や好まれる作業をとおしてゆったりとくつろぎ、馴染めるように努めている。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護の多くは自立支援であるため一日の時間を利用者の方と共に過ごしその中で、生活歴や体験談を聞く機会が多く、学びもあったり一緒に笑ったり、悲しんだりする場面もあり職員がなぐさめられたり、癒されることも多い。	○	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご家族と利用者の様子をお伝えしたりご家族の様子をお話してくださる等して十分に会話がとれ時には職員にねぎらいの言葉をいただいている。	○	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居されたらまずセンター方式を作成しており、職員も情報を共有しプラン作成にあたる。ご家族と離れて生活されるなかで、ご家族の話題を提供したり、馴染みのある写真等を飾る等、いつもご家族や家の心配をされないよう支援している。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者との話の中でよく出てくる人の名前や場所に注目して暮らしの様子をお伝えしたり、馴染みのある呼び方で実感できるように努めている。面会のときはゆっくと過ごせる空間を準備している。希望時は外出、外泊もされている。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が馴染めるようその都度、紹介したり団欒や軽作業の中で、職員も必ず一緒に加わり中間的な役割に努め、孤立されないよう配慮している。時には個別に関わっている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了したときに、再入居できるよう優先させていただくことをお話し今後も利用者の方を訪ねたり、様子をお伝えし、くださるようお願いし、ケアマネを中心に関係の継続に努めている。	○	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや願いを十分に聞いて、まずは個性を尊重し職員がチームとなりケアプランへ反映させている。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を通して多くの情報を得て速やかに職員全員が情報を共有し、これまでの暮らしを大切にしている。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居後は利用者の方に関心を向け気づきや情報の変化時はケース検討会を行ったり、朝礼で報告し代表や他の職員にアドバイスを受け、職員が共通の認識を持ち対応している。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の要望をよく把握し、センター方式を通してアセスメントし、ケアプランは関係者とよく話し合い誰でもわかる内容で個別性のあるプランを作成している。	○	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化等に伴い必要に応じてケース検討会を行い評価、修正し新たなプランを作成している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や経過、新たな気づき等は毎日支援経過に記録し申し送りノートを活用し全職員が目を通しサインをする等して情報を共有している。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ敷地内にあるグループホーム、デイサービス、特別有料老人ホームはどの利用者也自由に行き来ができ、開放的で気分転換につながっている。必要に応じては、ご本人、ご家族とよく相談し転居も支援している。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご本人の意向に応じてではないが地域の方や民生委員の方のボランティアは利用者の方たちへ楽しみや活気につながっており、地域に助けられ、支えられていると感じられる。	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要があれば他のケアマネジャーやサービス事業者と相談しながら利用者にとってよりよいサービスを利用できるよう努めている。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センター長に来ていただいたり運営者が地域包括の運営会議に出席する等、助言をいただいたりして互いに協働している。	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じてかかりつけ医を決めていただき主治医といつでも連携できる体制が確立されている。緊急時ご家族の希望の医療が受けられるよう支援している。必要時は看護師も同行し情報提供を行っている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の受診が必要と思われるときはご家族、主治医、関係者と話し合い、受診時は主治医、担当看護師が情報提供書を作成し受診、治療を行っている。定期的な通院時も情報提供書で様子を伝えながら連携を図っている。	○	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者の健康管理や医師との連携は担当看護師が中心となり行っている。急変時や夜間も他棟家の看護師を含めて連絡、対応できるように連携している。	○	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された時は職員が交代でお見舞いに行き馴染みのある顔と声かけ、励ましで安心していただいている。入院時には必ず連絡先を記入した連絡ノートを準備し、ご家族、医療関係者、職員と連絡をはかっている。お見舞い時には様子を聞き、病院の担当者と早期退院にむけて連携している。	○	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「重度化指針」について書面をとおしてご家族へ説明し確認を取り、重度化されたときは「終末生活支援」について再び確認を取りなるべくご要望に応じられるように努力している。	○	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	状態の変化に応じてご家族、主治医、関係者と重ね重ね話し合いの場を設け他の職員も情報を共有し利用者にとって最適な支援ができるようにしている。	○	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者の環境の変化によるダメージが少ないように関係者やご家族とよく相談しあらゆる情報を提供し連絡を取りあっている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人と尊重し言葉かけと対応は特に注意している。職員研修でも定期的にマナー教育や指導が行われ年長者として尊ぶ対応に心掛けている。特に入浴や排泄時にはさりげなく羞恥心に配慮している。	○
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	1つ1つの支援の際には必ず「○○しましょう」ではなく「○○されますか?」と確認をとるようにしている。無理に支援するのではなくしたい気持ちになっていただけるよう対応の仕方も工夫しなるべくわかりやすい言葉で支援している。	○
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り意思を尊重し個人のペースで生活できるよう心掛けているが自室にこもったり孤立されないように家事、作業、レク等に気持ちよく参加されるように働きかけている。生活のメリハリにつながり活動と睡眠につないでいる。	○
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者やご家族の希望に応じて行きつけの美容院へ外出したり定期的にお店よりカットに来ていただき希望があれば利用されている。毎日、家族会ではご本人と服を選びおしゃれを楽しんでいる。	○
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者、お一人お一人のお好きな物、苦手な物、薬と食べ合わせの悪い物を把握している。調理、配膳、後片付けはおしゃべりしながら一緒に行っている。食事も同じテーブルを囲み一緒に食べさせていただいている。	○
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	甘い物やふかし芋、果物を好まれる方が多い。飲み物はそれぞれで、牛乳が飲めない、熱いのがいい、冷たいのがいい、と様々で相談しながら一緒に準備し楽しい話題の中での団欒の時間を大切にしている。	○

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できるだけパット類を使用しないように心がけており、個々の排泄パターンを把握し誘導、介助を行っている。排泄はゆっくりできるよう他の方とトラブルにならないように別のトイレへ誘導し排泄後の確認も行っている。	○	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は日曜以外の日は午前、午後といつでも入れるように準備しており利用者のご希望にあわせている。入浴も拒否される方もいるが楽しい話題を提供し心地よく入っていただけるよう声かけ支援している。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息されたいときはいつでも自由に休んでいただいているが長時間にならないようさりげなく声かけしている。また、夜間、良眠につながるよう日中はなるべく身体を動かしていただいている。	○	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝のレクリエーション、健康体操、歌の会、自主活動、レコード鑑賞会と季節に合わせた行事等様々な活躍の場面を支援している。また、センター方式にある、得意、好まれる事への支援も個別に行っている。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の方のお金はお小遣いとしていつでも出し入れができるように担当の職員が管理しており希望があれば一緒に買い物へ行きご自分で支払いをされている。	○	ご本人の希望があれば、ご家族と話し合い、自分でお小遣いを管理している方もおられる。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や近辺散策、ドライブ、ご家族との外出等希望に合わせて出かけられるようにしている。また、自ら外へ出かけられる方はそっと見守りユニット間で連携をとっている。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブや外食等は利用者の方と相談しその日の天気や気温に合わせて出かけている。個別に買い物を希望されるときはご家族や職員と一緒に出かけている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人の方からお手紙や贈り物が届いたときは利用者の方が手にとって喜んでおられる写真を添えて返信したり電話をかけたりしている。それ以外にも希望に応じて電話をかけ喜びや安心につながっている。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人の方の面会時は、和室や居室等にイスやテーブルお茶等を準備しゆつくりと過ごしていただくよう努めている。いつでも開放し、誰でも気軽に面会または立ち寄っていただいている。	○	
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念に拘束をしないケアの実践も含まれており、朝礼や職員全体会等で事例を通して学び、言葉かけの一つをとっても拘束にならないよう心がけている。現在も拘束となる支援はしていない。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝7時に門を解錠し、夜は20時20分ごろに施錠している。その他は開放しており施錠はせず自由に入出入りしていただいている。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者9名の方がどこで何をしているのか、常に把握しており、職員間で声を掛け合い、さりげなく見守り、支援を行っている。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬剤は鍵のかかる医療品棚へ保管し、洗剤(食器洗い、トイレ用、洗濯用等)は目に付きにくい場所で、歯磨き粉や手洗い洗剤は見えるところにおいて自由に使ってもらっている。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のため、職員研修会や朝礼等で意欲を高めている。ヒヤリハットや事故があれば報告書を提出しその都度、対応、防止策を検討しあっている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的(3ヶ月に1度)にナース会を行い、職員研修会でテーマにあわせて実演指導も入れながら気軽に質問したりして学びの機会をもっている。	○	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回防災訓練にちなんで朝礼や全体会で訓練または申し合わせを行っている。防災器具の点検や避難経路の確認は特にチェックしている。近所の住民の方々にも災害時は支援を受けられるよう連携がとられている。	○	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族会で「起こりえるリスクについて」「拘束について」事例を通して説明し、ご家族にも意見をいただいて予防策を検討している。実際起こってしまったことは、ご家族や市にも報告している。	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々、健康チェックを行い異変があれば看護師へ報告し必要時は主治医と連携し早期対応している。緊急時はマニュアルにそって関係者と連絡をとり最善をつくしている。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服用されている薬の内容は個人ファイルへとしており変更時は朝礼で報告し、出席していない職員も確認簿や申し送りノートにて確認しあっている。「与薬管理マニュアル」に基づき薬の取り扱いは十分注意している。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便があったかどうか毎日朝礼で報告し、便秘時は腹部の観察を行い、水分摂取、運動、マッサージ、下剤の調整を行い、下痢のときは反応便や便の性状を観察しバイタルもチェックして下剤の調整や、消化のよい食事を提供している。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後はお一人お一人に声をかけ、歯磨きやうがいを支援している。その都度、口腔内の観察を行い、異変時には看護師へ報告し対応している。口腔機能訓練も毎日行ったり2ヶ月に1度、歯科衛生士のボランティアがあり、ケア指導をうけている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取状況は、個人の支援経過に記入しており、食欲がないときは好きなものや食べやすいものを準備している。水分がいつでも取れるようお茶セットをテーブルに置いたり、他の飲み物を準備し、職員も共にお茶の時間をすごしている。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対策マニュアルを作成し、マニュアルにそって対応している。流行時期には早めに予防対策を開始し、朝礼で職員と情報を共有し周知徹底している。	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルにそって、器具の消毒、エプロン着用、食品の保管等、注意している。食材は自家栽培の野菜を使用し、仕入れも、国産品を使用し、安全で新鮮な食材を提供している。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	道路に沿って3箇所の方が開いており、近所の子供たちや住民の方が安心して出入りできるよう、段差や障害物のないようにしている。花壇の花も目で楽しんでいただいている。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、廊下、トイレは日中でも明かりをつけて採光が十分に入るようにしている。和室には大きな窓があり、外の景色や天気がわかるようになっている。テレビを見ないときは消し、静かにBGMをかける等、不快な音、職員の話し声にも注意している。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓を囲んでお話ししたり、新聞を読んだり、和室でテレビを見たり、談話されたりと自由に過ごされている。ピアノも自由に弾いていただいている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の慣れ親しんだ家具や調度品を置いたり、ご家族の写真やご主人様の位牌を置いてお花を飾ったり、お供え物をされたりとお好きなようにされている。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝起きたら必ず換気をし、日中も気温や天気に応じて自然の風を取り入れている。冬場も定期的に換気して気温と湿度を調整している。	○	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には木製の手すりをつけ、トイレ、浴室にも立ち上がりや安全のため手すりをつけている。個々のイスもその人に合わせたイスを使用している。動線にはできるだけ障害物となるものをおかないよう配慮している。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの入口には「御手洗」の表示をして電気をつけ自室の入口には表札をかけ見えにくい位置には大きな文字で表示している。テーブルの席も慣れない方には名前を表示し、なるべく席は変えないようにしている。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気のよい日はベランダでお茶を飲んだり、庭を自由に散歩し、季節を感じていただいている。ベランダには手すりに布団を干したり、物干しに洗濯物を干す等して利用していただいている。	○	

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)